

再整備を見据えた長崎市横尾地区における都市公園の利用実態に関する考察

長崎大学工学部工学科 学生会員○田中 秀輝

長崎大学大学院工学研究科 学生会員 中村 太一 正会員 石橋 知也

1. 研究の背景と目的

都市公園法の制定から60年以上が経過し一定の公園ストック整備が終わったが、社会情勢の変化により公園に対するニーズが多様化し、使われなくなっている公園も多い。しかし、公園の利用は健康増進や地域交流の促進、緑による心理的安定など様々な効果をもたらすため、公園があることのメリットは大きい。そこで近年、自治体は公園利用を促進するために地区全体で一体的に公園を整備し、公園ごとに機能を特化・相互補完する取り組みを積極的に進めている。

本研究では、現在、地域で一体的に公園を再整備しようとしている長崎市横尾地区を対象に、再整備前後を比較するための基礎資料として現状（再整備前）の利用実態を把握することを目的とする。

2. 観察調査の概要

2.1 調査内容

観察調査は2022年10月に9公園（図1）で、平日と休日それぞれ1日行った。時間は朝から夕方にかけて2時間おきに30分ずつ計4回行った。調査では、利用者数、散歩・ベンチの利用などの利用行動、その行動が発生した場所を記録した。

2.2 結果

各公園の平日の利用者数・利用行動を表1に示す。表1を見ると、9公園全体の傾向として、午後のほうが午前よりも利用者が多い傾向が確認できた。また、1日の利用者数は平日・休日ともに秋寄公園が最も多く、2番目に利用者が多い公園と比較して約2~5倍の差があった。公園での具体的な利用行動について観察調査を平面図にまとめたものを利用者が多い



図1 9公園の位置図

秋寄公園を例として図2に示す。図に示すように、公園内の通過は赤線で記載し、その線の多寡によって歩行者量が把握できる。公園内での利用行動は、その発生場所を調査時間ごとに区別した記号で示し、その具体的な行動は引き出し線で記載している。

各公園での利用行動の傾向を把握するために利用行動を休憩・会話、通過、遊び、運動、その他に分類したものを表2に示す。全体の傾向として、平日に通過、運動、休日に休憩・会話、遊びの利用行動の割合が高かった。また、各公園の利用実態を分析すると、公園ごとに使われ方が異なることがわかった。上横尾緑地、滑石3丁目中の公園では通過が、築廻公園では休憩・会話が特に高い割合を示した。

3. ヒアリング調査の概要

3.1 調査内容

ヒアリング調査は2022年11~12月に9公園で実施した。この調査は、観察調査では把握しきれなかった部分を補完することを目的とした。調査項目を表3に示す。大問1は調査を行った公園、大問2は

表1 各公園の利用者数・利用行動

	猿田公園		山の木公園		上横尾緑地		秋寄公園			
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日		
午前	利用者数	0	0	2	0	6	9	48	10	
行動別	2	0	散歩・トイレの利用	0	通過・散歩	遊具の利用・トイレの利用	遊具の利用・通過	ベンチの利用・トイレの利用		
午後	利用者数	2	0	0	2	7	15	22	50	
行動別	ベンチの利用・手洗い場の利用	0	0	トイレの利用・ベンチの利用	0	通過・散歩	通過・ベンチの利用	ベンチの利用・ウォーキング	遊具の利用・ベンチの利用	
利用者合計	2	0	2	2	13	24	70	60		
	横尾公園		滑石3丁目中の公園		滑石3丁目下の公園		築廻公園		横尾元村公園	
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
午前	利用者数	2	3	1	5	0	4	0	0	1
行動別	会話	定員の利用・掃除	通過	通過・犬の散歩	通過・犬の散歩	0	トイレの利用・倉庫の利用	トイレの利用	掃除	
午後	利用者数	2	8	4	6	0	1	3	0	5
行動別	ベンチの利用・倉庫の利用	通過・ベンチの利用	通過	通過・ベンチの利用	通過・ベンチの利用	0	ブランコの利用	トイレの利用・ベンチの利用	トイレの利用・ベンチの利用	会話・バドミントンを行う
利用者合計	4	11	5	11	6	0	5	3	0	6

表2 各公園の利用行動の分類

利用行動	猿田公園		山の木公園		上横尾緑地		秋寄公園		横尾公園		滑石3丁目中の公園		滑石3丁目下の公園		築廻公園		横尾元村公園	
	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)	平日 (%)	休日 (%)
休憩・会話	33.3	0.0	25.0	66.7	0.0	14.3	26.0	39.1	75.0	18.2	0.0	16.7	0.0	0.0	66.7	100.0	0.0	33.3
通過	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	69.2	39.3	13.7	4.7	0.0	63.6	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
遊び	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	31.5	46.9	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0
運動	33.3	0.0	50.0	33.3	15.4	7.1	12.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	33.3	0.0	25.0	0.0	15.4	10.7	16.4	3.1	25.0	9.1	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7

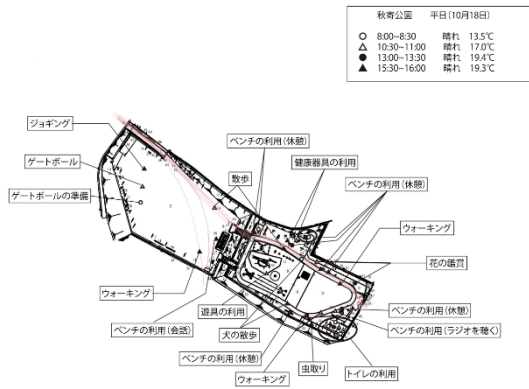


図2 観察調査結果：秋寄公園（平日）

調査を行った公園以外に普段利用する公園の利用実態を把握するための設問となっている。大問2は大問1と同じ設問であり、利用者数の少ない公園についての利用実態を把握しやすくするために設けた。

3.2 結果

この調査では、9公園合わせて33人にヒアリングを行った。大問1, 2は同じ設問のため合わせて考えると、築廻公園：9票、秋寄公園21票、横尾公園：5票、猿田公園：3票、山の木公園：2票、上横尾緑地：2票、滑石3丁目中の公園：1票の結果が得られた。大問1, 2に関しては、「一人で行く」と答えた人が約8割であった。また、公園まで「徒歩」で行く人が約9割を占めた。しかし、築廻公園だけは、「自動車」と答えた人が4割以上で、ほかの公園とは異なる特徴がみられた。家から公園までの所要時間が「5分以内」の人が6割、「5～15分」の人も合

表3 ヒアリング調査項目

設問番号	設問内容
大問1 (調査を行った公園に関する質問)	問1 誰と来たのか
	問2 その公園に行くまでの主な交通手段
	問3 家から公園まで行くのにかかる時間
	問4 その公園を選ぶ理由
大問2 (調査を行った公園以外で普段よく使う公園に関する質問)	問5 その公園でしたこと
	問6 その公園の滞在時間
	問7 その公園の利用頻度
	問8 その公園には再整備後どうなってほしいか
大問3 (自宅から一番近い公園に関する質問)	問1 自宅から一番近い公園
	問2 大問3問1の公園をよく利用するか
	問3a(問2の公園をよく利用する場合) その公園を選ぶ理由
	問3b(問2の公園をあまり利用しない場合) その公園を選ばない理由
大問4	問4 その公園には再整備後どうなってほしいか
大問5	その他、公園づくりや公園の管理についてのご意見 フェイスシート

わせると8割を超えていることから、家から近い公園に行く人が多いことがわかった。公園を選んだ理由は「近い」、「立ち寄りやすいところにある」と答えた人が約4割を占めた。また、「ボール遊びや運動ができる広場がある」、「花や緑が豊かである」を選んだ人が1割程度いた。滞在時間は「15分以内」が約47%、「15～30分」が約21%、「30分～1時間」が約23%で、それらを合わせると約91%となることからほとんどの利用者が1時間以内の利用であった。公園の利用頻度は「ほぼ毎日」が約3割、「週に2～3回」が約4割を占めることから、公園を日常的に利用している人が多いことがわかった。大問3に関して、これまでの結果から、自宅に近い公園を利用する傾向が強く見られたが、自宅近くの公園を利用しない人も少数ではあるが見られた。自宅から近い公園を利用しない理由としては、「公園が狭く、やりたいことができない」、「見通しが悪く不安」という意見があった。大問1,2の間4と比較してみると「ボール遊びや運動ができる広場がある」を選ぶ人が一定数いることから運動等ができる広い公園も公園選択における基準になりうるということがわかった。また、大問3を回答した人全員が調査時に秋寄公園を利用していたことから秋寄公園は自宅から多少離れていても選ばれる公園であることがわかった。

4. 今後の展開

これまでの調査の結果に加え、各公園の規模や資源、周辺環境も考慮して、横尾地区における公園の利用実態やその要因についてさらに考察する。

参考文献

- 1) 吉田俊介, 矢口哲也：小公園の地域機能分担における多基準評価と整備の意思決定支援モデルの構築, 日本建築学会計画系論文集, 85巻 776号, pp.2171-2181, 2020
- 2) 国土交通省都市局：都市公園のストック向上に向けた手引き <https://www.mlit.go.jp/common/001135262.pdf> (上記は2023年1月5日に確認)